

すなやま・けんいち

株式会社ゆう建築設計代表取締役。建築設計と企画を一体的に行う「建築企画」のバイオニア。関西を中心に80を超える医療・介護施設の設計を手がけ、近年では医療法人等を対象とした高齢者住宅事業のセミナーを各地で展開している。1972年、SANT-LUC DE TOURNAI 建築学校(ベルギー)留学。75年、京都大学工学部建築系学科修士課程修了。81年、ゆう建築設計設立。著書に、「医療・介護・建築関係者のための高齢者の住まい事業企画の手引き」(学芸出版社)等
http://www.eusekai.co.jp/
E-mail:sunayama@eusekai.co.jp

多様化する特養 建築から新たな可能性を探る

モノ



居室内に求められる建築的工夫 多機能性のある洗面台

砂山憲一 株式会社ゆう建築設計代表取締役

特養の居室においては、住み続けるために必要な機能の選定が重要となります。住まいのなかで必要な機能(キッチン・トイレ・浴室・洗濯などの設備)のなかには、入居者のADLの低下とともに、使用しなくなる、もしくは使用頻度の低くなるものもあります。居室空間のなかでも優先順位の高いものとして、先月紹介したトイレの他に洗面が挙げられます。

今回は洗面における建築的工夫について取り上げます。

洗面台を多目的に使う

特養の居室に設置される設備のなかで、洗面台はトイレと同じく毎日の生活に重要なものと位置づけられます。口腔ケアをより実践しやすくすること以外にも、居室の洗面台で行われる機能はさまざまです。

〈洗面としての機能〉

洗面・歯磨き・手洗い
〈キッチンとしての機能〉

湯呑等の洗い物・湯沸かしポットへの給水・タオルなど簡単な洗濯
入居者の衣類の洗濯は共用部



写真1 キッチンを意識した例

がないため、手入れのしやすいつくりとなっています。

洗面と水栓金物について

洗面を考える場合に、水栓金物の形状にも配慮が必要です。入居者の方が使い慣れており、なおかつ操作性のよいものということ、シングルレバー水栓を選択されること多く見られます。このとき、水栓の取り付け位置によっては入居者の手が届かないケースも出るため、選定には十分に考慮する必要があります(写真3)。

居室は人間にとって

最も安全で安心できる場所

特養設計者に求められるのは「住まい」を作っているという意識を持つことです。特に居室はそこに住まう方にとって、世界のなか

で行うことが一般的なため、洗濯機は設置されませんが、タオルやふきんを簡単に洗うことはあるでしょう。また、ご自身やご家族のお茶を用意したり、湯飲みを洗う場合もあるでしょう。もちろん介護職員の使用も考えられます。このように、洗面台は居室における唯一の給水設備としてさまざまに使われます。ご自身で動かす方と全く寝たきりの方では、その使用方法も全く異なり、限られたスペースで幅広い用途に対応できる洗面台が好まれます。

一方で、そのような多機能な既製品は少なく、各メーカーから発売されている高齢者用洗面台は車いす使用者および洗面的用途に特化したものが多いです。

多機能性のある洗面台

そこで当社では、ここ数年にわたりさまざまな事業主からご要望が増えている「多機能性のある洗面台」について考えてきました。

初期の頃は部屋で多少の夜食(インスタントラーメン程度)はつくれることを想定しました。キッチン機能を付加したもので、作業



写真2 居室になじむ洗面の形

で最も安心できる場所となりま

す。これまで述べてきたさまざまな工夫は、高齢者の身体的条件の変化に対応できる建物という視点でした。しかしそれ以上に重要なのは、高齢者にとって、本当の「自分の住まい」と感じてもらえる建築を提供することです。

もちろん、これは建築の力よりも介護者の力が大きいのですが、われわれ設計者は機能的工夫にばかり目が行きがちです。入居される方が本当に安心して住める工夫がなされているか自問し

スペースを広めにとりました。カウンターはステンレスとし、茶碗洗いなどができるように底がフラットに近い洗面ボウルの形状にしています。もちろんここで洗面も行いますが、生活のなかでのキッチンとしての機能を重視した形です(写真1)。

さらに考えましたのは、居室内の雰囲気を持たせれば、あまり違和感がなく、なじませることができると考えました。

写真2は、人造大理石の洗面ボウルとカウンターを利用して作りました。オーダーとなるため、作業スペースの設定は自由です。茶碗洗いなどを考え、ボウルの底面ができるだけフラットに近いものを選定、排水目皿はごみをキャッチできるキッチン流しを採用しています。写真からもわかるように、洗面台という感じではなく、さまざまな日常作業に使える家具の雰囲気を醸し出しています。また陶器ではないため、万一がコップなどを落としても洗面ボウルが割れることはありません。カウンターとボウルの継ぎ目



写真3 水栓を手前つけた洗面

なければなりません。

床面積13・2㎡(または10・65㎡)の四角い部屋を「本当の住まい」にするためには、入居者のそれまでの生活習慣が継続できることは非常に大事な部分です。

それには、これまで使ってきた家具を持ち込むことも有効な手段の一つです。今回の洗面まわりも特に入居者の私物が多く置かれる箇所であり、小さな棚や作業スペース、収納というものが活きてくる場所です。狭いスペースですが、多くの配慮が求められる重要なポイントとなります。